



地域限定の情報紙

白石東地区限定の情報紙「白石東まちづくり通信」を平成17年8月より発行しています。

本紙は、白石東地区まちづくり協議会が編集局になって地区内取材し、年3回発行する予定です。みなさんも身近な話題をどしどしお寄せ下さい。スタッフが取材に参ります！

昨年4月の着任から早いもので一年半以上が経ちました。この間、地域の方々と交流を持てたことは、私の財産であり本当に深く感謝しています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年、私の中で大きな出来事は二つあります。

一つは白石東地区のマスコットキャラクター「ゆっきい」と「わんこ隊長」の誕生です。

昨年7月の構想開始から1年余りを費やし、地域の3小学校の子どもたちがイメージした独自のキャラクター誕生は嬉しい限りです。



今後、白石東地区のまちづくりのため、大いに活躍してくれることでしょう。

もう一つは、今年9月の地震です。我がまちセンも6日未明の発生直後から8日夜まで停電となり、ラジオしか情報源がない中、地域の皆さんと連絡をとりあい情報収集に追われました。

不幸中の幸いと言っては不謹慎ですが、当地区に大きな被害はなく胸をなでおろしました。

さて、来年は元号も変わります。白石東地区にとって更なる飛躍の年になりますよう祈念いたします。

【白石東まちづくりセンター 所長 柴田耕司】



みんなであそぼう! at 白石公園



夏休みの初日、今年も「みんなであそぼう! at 白石南公園」が行われました。天候にも恵まれ、大勢の人でにぎわいました。900名を超える参加者が、シャボン玉をしたり、水鉄砲で遊んだり、ヨーヨーすくいをしたりして楽しみました。

小学生くらいになると、ストラックアウトやディスクゲッター9に挑戦しています。ステージでは、保育園の子どもたちが踊りやヨサコイ等を披露してくれました。大きな拍手で会場は盛り上がり、今年は、白石東地区のマスコットキャラクターの作成に取り組み、「ゆっきい」と「わんこ隊長」というキャラクターが誕生しました。このキャラクターを作った小学生が表彰されました。

遊びに来る子どもたちは、保育園の子どもたちと小学生がほとんどですが、中学生もボランティアスタッフとして活躍してくれました。小さな子どもたちのお世話をしながら一緒に遊び、準備や後片付けもしてくれました。とても助かりました。町内会や老人クラブの方々にも手伝いをお願いしていますが、子どもたちの元気な姿をみて、逆に元気をもらっているようです。

子どもから大人まで、世代を超えて楽しめるような催しにしたいと思っています。

来年も是非多くの方が参加してくれるよう願っています。

【取材担当: 東海林】



平成21年度に第1回事業として、白石こころーど(旧白石サイクリングロード)の白石東地区内にあるトンネル壁画(TILE ART)制作を開始して、今年度(平成30年)で10回目になりました。

地区内トンネルで制作予定箇所は、「みそらボックス橋トンネル」北側(南郷通15丁目北)の一箇所のみとなりました。

来年度(西暦2019年)に上記箇所を制作して、11回目で完了となります。

この間、10年にわたり江別市在住の美術家原田ミドー先生の訓導のもと、毎年「地域町内会会員」と「通りすがりの人々」そして「地域小学校高学年の児童」の皆さんが約2週間で350名~400名の参加協力を頂きました。

特に、多い年には500名からの参加を頂きました。

とりわけ、今年度TILE ARTのデザインは白石東地区まちづくり協議会が地域の魅力発信事業として生まれた『白石東地区のマスコットキャラクター』として、(白石東雪の精ゆっきい)と(白石東鉄砲隊わんこ隊長)をテーマとして採用致しました。

大谷地小学校、東白石小学校、平和通小学校の児童からキャラクター原案を募集し、原案をもとにデザイン化したものを、3小学校の児童による投票で決定しました。

このことにより、TILE ARTの素材として制作採用したことが、子どもたちの情操教育に大きな役割と効果をもたらすことと信じております。

今日までの経験として、トンネル内の目に余る落書きが、TILE ART制作をすることにより過去10年間全く落書きが皆無となっているという現実を目の当たりにして心より感慨深く思っているところです。

来年度も事業の完成を目指しておりますので、地域の皆様の協力参加をお願い申し上げます。

【取材担当: 田森】



第11回「クリーンアップ大作戦」

第11回「クリーンアップ大作戦」

毎年恒例の札幌商工会議所附属専門学校生徒による白石東地区13町内会へのボランティア清掃活動が6月28日(金)に行われました。

毎年全員の希望に満ちた新鮮な姿を目にすることが出来、楽しそうな清掃活動を見て、何時迄経っても大人になりきれないモラル違反の「コトナ達」と違い、この十年間いつも感じるのは、この生徒達が一人前の大人になり指導する立場になった時の将来がとても楽しみに思える事です。

全員がモラリストになるとは思いませんが少なくともこの生徒達の周りは他より清潔な場所が多くなると確信します。

年一回とはいえ、このボランティア(奉仕)は他の学校では体験できない貴重な「宝」として心に残ることでしょう。

私たちの感謝はもちろん、この小さな積み重ねは、将来必ず実を結び社会人としての礎にもなることと確信します。

諸君の健康とご健闘を祈りつつ、成長ぶり楽しみにしています。

【取材担当: 山本】

台風21号！そして胆振東部震災 の経験から

胆振東部地震により被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。
大谷地小には、100名を越える方々が避難されました。

白石区役所の方を中心に避難所運営が行われ、一緒に本校職員も協力させていただきました。
その中で印象に残っているのは、トイレの水の確保です。

停電により水洗の水が出なくなっていました。初めは、プールの水を利用する方法をとっていましたが、運搬の労力を考えると長くは続きませんでした。そこで職員が考えたのは、ごみ収集用の大きなペールを使用し、そこに水を溜める方法でした。

1階には貯水槽があり、そこに水を送る蛇口から幸い水がでました。最初はそこからもバケツで運んでいましたが、温室で使っているホース(若干穴あき)を使用することを思いつきました。みんなの知恵で前より少しだけ楽にトイレの水を確保することができ、不便な環境の中でもささやかなうれしさを感じました。

今回の災害を通して、改めて電気・水の大切さを実感させられました。これからも、役所・地域・学校が連携して大きな災害に対応していきたいと思えます。

【札幌市立大谷地小学校 校長 大宮 健一】

今年、白石区防災訓練場所に当町内会連合会大谷地小学校が決定され、9月4日白石区主導により実施しました。参加者は大谷地小学校の児童528名。

一般参加者124名(来賓20名)各種機関171名、合計862名と盛大に行われました。

参加者の声によりますと、訓練がスムーズに行われていなかったとのことで、特にバケツリレーでは、説明が長すぎとの事でした。

そんな中、小学生が大いに興味を示したのが自衛隊の装備でこれにより将来に自衛隊にと思ったのではと推測され、ほほえましく思われました。

最後に「コココーラ」さんが無料で販売機を解放下さった事に感謝申し上げます。

来年も盛大に行われます事願っております。

尚、当町内会連合会が札幌市危機管理対策室より地区防災計画モデル地区事業としての検討依頼があり取組む。札幌市には10区、90の町内連合会がある中での2つ目のモデル地区にご推挙された事に、大いなる名誉な事と、あらゆる試行錯誤を重ね、2020年も3月までに、13町内会会長さん方と一致団結し、モデル地区として恥じない、立派な防災計画策定を練り上げる所存です。

【栄通19.20丁目町内会 会長小笠原忠雄】



「台風21号上陸に続き、激震に見舞われた本道」

9月5日未明台風21号の上陸、翌日6日早朝3時7分に、マグニチュード6.7、最大震度7、札幌は震度5の胆振東部地震が発生、そして道内295万世帯が停電となる前代未聞「ブラックアウト」を体験した。

「地域のたまり場的サロン・・・日頃の活用と意見の交流に感謝」

地震が起きた直後、3時10分頃の暗闇の中「たまり場的サロン」前には頻繁に会合する役員7名が以心伝心の如く集まった。

早朝3時25分頃には、役員の一人が社員やその家族、関係者へ次々と安否確認と指示等、携帯が不通となるまで続ける姿が見られた。

一方の役員は二組に分かれ、独居老人宅約20名の安否確認と食事提供の希望を募りながら活動を開始し、その中数名の方が要望が有り、食事を届ける事が出来、今後の支援活動に役立つ事を知った。

周り始めて即困ったのは、停電の為にインターホーンが通じない事に気づく、早朝か叫ぶのは如何と思うも勇気を奮い郵便受け越しに大声で呼びかける事にした。

会員宅・集合住宅含め約118軒に対し「水の確保と明かりの確保」等と呼掛け回った。

訪問の中で、独居高齢の方が素早く玄関ドアを開口し、逃げ道を確保されていた方、もうひと方は10日分の食料を小分けし避難グッズと共に装備されていて、大変心強く感じつつ安否確認も出来とても安心致しました。

また、福祉施設事業所数か所に給水状況を確認し、一事業所には直接訪問し相当量の飲料水を提供する事が出来ました。

「ブラックアウトを体験・通信の有難さを新たに認識」

携帯電話の充電を思い付き、まちセンに訪問ドラムの稼働を依頼し充電可能となった。同時に通行人も続々と集まり充電する状況はまれに観ぬ光景でした。

寄付の一部でも集めて建設された施設は緊急に応じてもっと市民に開放されてほしいとの思いに成りました。

この日の夜、緊急会議開催、ブラックアウトの体験と対応を協議した結果、役員宅の駐車場を一時的避難場所とする事で快諾頂き、尚且つ発電機も提供され明るさの確保も確約得た事は、住民の安全確保にまた一歩前進する事が出来ました。

「ライフラインは生命線・水道・電気・ガス・道路・鉄道・電話に感謝の念」

ブラックアウトの体験による電気・通信・光・水等、ライフラインの崩壊は生命をも遮断する、その瞬間の脅威を共に再確認、早急の対策として、「タイムライン」の掌握と各行政機関との連携確立を必須の課題と認識しました。

購入すると決定した防災庫と、備蓄品の中身についても今回の教訓を生かした緊急の検討課題です。

「今後の課題を解決しつつ地域の安全・安心に繋がりたい」

二日後、近隣の商業施設へ訪問、飲料水の提供や電源確保とスマホ充電の交渉を行って、地域住民への周知徹底も含め提供の許可を得る事が出来ました。

次に消防署を訪問、冬場の大火災を想定し、防火水槽・消火栓の点検と取扱いと訓練の要請に伺った。消防署より協力を得て一体となり、地域内にある防火設備を活用した訓練が出来る様、申請を済ませた。

今後に於いて給油・給水・給食・給電等々の情報提供が住民に出来る態勢作りを急ぎたい。

何より大切な事は、敏速かつ適切な意見と先導される仲間が居てこそ有効な活動出来る事を改めて認識し、今回の活動には感謝する事が出来ました。今後「大火災」もあり得る事、「対岸の火事」と思わず「明日は我が身」と受止め「備えあれば憂いなし」を合言葉にして、近隣町内と親睦や情報交換を重ね、よりよい対策を共有出来る態勢が急務と思う昨今です。

【栄通18丁目町内会 会長 市橋 敏夫】

備えあれば憂いなし

災害は忘れないでやってくる

9月5日、台風21号で道内は記録的な暴風により大きな被害があり、JRは全路線運転停止になった。みつば町内会の公園の大木2本が根こそぎ倒れ、住宅のガレージ上に枝が覆い架かった。早速、白石土木部に連絡して、倒木の周辺の遊具など縄で縛り、危険防止の立て札でそれ以上の事故を防いだ。

土木部の急速の対処に、倒木は処理され、感謝の気持ちで一杯です。

翌6日 3時7分、震度7の北海道胆振東部地震により、同時に停電と余震で不安な朝を迎えた。道央の広い範囲で土砂崩れで家屋が下敷きになり、多くの死傷者が出たことを報道されていた。札幌市も停電と断水もあり、信号機も機能せず地下鉄・市電・路線バスもストップし、生活に大きな混乱がおきました。

災害時の備えとして、携帯ラジオ、カセットコンロ、カセットボンベ、飲料水、懐中電気、乾電池、キャンプ用のランタン等が役立ち落ちつきました。

実際、「電気や水のない生活に戸惑い、備えあれば憂いなし」を実感しました。

〔みつば町内会 会長 横野 正春〕



台風21号、地震の被害状況

大谷地第二町内会地域内では、9月5日朝にかけて北海道付近を通過し温帯低気圧に変わった台風21号は道内におおきな被害をもたらし、当町内地域では風速40mを観測するなど、記録的な暴風が吹き荒れました。

当町内会地域内では公園が5カ所あり、そのうち2カ所の公園で5本の木が根元からなぎ倒されました。また、1カ所の公園のふちに立てていた物置が飛ばされて道路のふちまで飛ばされていた。地域内を巡回していて話をきいたところ被害にあわれた方はいないようでした。幸いにしてよかった事と思います。

9月6日朝3時8分胆振管内厚真町で道内初めて最大震度7を観測した胆振東部地震が発生、土砂くずれや倒壊した家屋、死者数は41名、避難4000人、負傷648人、当町内会地域内は地震発生と同時に停電になり地域内の辺り一面はまっくらになっていた。朝、当町内会を巡回して回り公園内の水道は出ており、高層マンションに住んでいる人は既に水道水をくみに来ておりました、停電によりエレベータが止まり階段を使用していました。

当町内会地域内から被害の連絡はなかったようです。9月7日午後6時頃電灯がつき一安心致しました。地域内の方は大谷地小学校体育館に避難された人はいなかったと思います。一人暮らしのかたも避難した方はいなかったと思います。当町内会はもとより、道内全地域で停電が発生、全ての発電所が停止した事は初めてだと思えます。いつどこで発生するか分からない地震、水害など対策を町内会全体で考えて行かなければなりません。

【大谷地第二町内会 会長 福田洋】

災害そのとき！

9月5日早朝に大型の台風21号が、北海道を駆け抜け大きな被害をもたらしました。柏町内会でも幹線道路の街路樹や、白石東公園、月寒川河川敷などで大木が根こそぎ倒れ、むき出しの状態でした。

町内会役員より、倒木の一部が生活道路を封鎖している旨の連絡があり、区土木センターと協議、危険個所にはグリーンの危険と書いたテープを張るなどの対応をしているとの説明でした。

区全域で被害が生じているなか、いち早く対応をしていただき、感謝・感謝の一言です。

翌9月6日午前3時7分には北海道胆振東部地震が発生し、白石区も震度5強を観測いたしました。

明け方、町内全域を巡回し、家屋の倒壊等の被害の有無について目視で確認しました。

その後、役員からも、次々と被害の有無についての報告がありました。

町内会では、独居老人の見守りを民生委員・児童委員に依頼し、安全を確認したところです。

訪問時、隣家の方より「大丈夫ですか？」との声かけがあったとの話や、ガス、水道が使えたので食事も自分で出来るといった方がほとんどでした。

町内には、3カ所の認知症グループホーム、1カ所の特別養護老人ホームがあり停電の中、携帯電話で連絡を取り合いました。

その中で食料や断水の恐れがあり給水の確保、入所者の安全確認、精神的ケア、家族への連絡等について話し合いました。

各施設とも、いち早く近隣の職員を招集し対応しているとのことので一安心!!

助けが必要となった時には、町内会に連絡するとのことでした。

後日、関係施設に確認をしたところ、大きなトラブルもなく、多少の不自由はあったものの、入所者は安定しているとの報告がありました。

ラジオ放送で、区内の避難場所開設のニュースが入り、避難場所の平和通小学校へ行ったところ、区役所の職員が、受付対応をしていましたが、「停電で給水もできません、トイレも使えません、避難場所は3階です」との説明があり、避難所を利用しようとして来た人の大半は、帰宅しましたとのことでした。

その後、避難場所を利用した方は、再度大きな地震があったら恐ろしくて、不安だったので、といった方が多かったようです。

9日には、町内会子ども神輿渡御を予定しておりました。

準備を進める中、台風・地震と災害が続いた状態での開催を危ぶむ声が役員の中から聞かれましたが、停電が解消されたこともあり、考え方を換え、町内の安全確認、見守りを併用し、会員の不安を聞いてあげる事も必要である旨の説明をし、実施に踏み切ったところです。

神輿渡御における子供の参加について、臨時休校中での外出について、平和通小学校の校長先生に確認したところ、特に規制はしていないとのことから、予定通り開催する旨を説明しました。

神輿渡御では、例年より多くの方が家から出てきて、応援をしてくださいました。

また、施設入所者をはじめ職員の方々も大変喜んでくれました。

大きな災害が続く中、町内会としては、特に役員召集等の対応を取りませんでした。班長さんを中心とした日常活動の中での見守り、地区部長、各部長、副会長・会長へと連携がとれ、災害に対応すべきベースはできているのではないかと感じております。

災害は夏に限っておらず、冬季に起きたり、今回のように停電、断水といった状況が発生した時に、どう対応しなければならないのか、その対処法を検討していく中で、向こう三軒両隣との関係を密にしていくことの必要性を強く感じたところです。

【柏町内会 会長 長井和幸】



今年は、異常気象と言われているなか、台風5号から変わった低気圧の影響で前日には、河川の増水が見られ、水位の高い状況と言った気象状況のなか第27回 白石東地区マラソン大会が、7月8日(日)に大谷地冒険公園を発着とした「白石ころーど」で開催されました。

出場選手は、8町内会より小学生男女から、一般男女合わせて37名の選手が健脚を競いました。参加者の中には、白石東まちづくりセンター柴田所長が40歳の部で優勝しました。

大会運営は、各町内会長を始め、スポーツ推進委員、体育スポーツ振興会役員、青少年育成委員会役員や、参加選手の保護者の皆さん、白石東地区交通安全実践会などの協力のもと実施されました。

会場として白石ころーどを使用することから、自転車走行の方、ランニングの方、ウォーキングをしている方などが利用しており、出場選手との接触のないよう、安全確保等のための走路員を配置し、協力願いました。

競技中に、「邪魔」だとか、「何をやっている」、等々の心無い言葉を浴びせられつつ、「マラソン大会です、安全走行をお願いします」と毅然と答える姿も見られました。



連日30度を超すなか、健康状態を心配しつつ計画された、第27回白石東地区少年野球大会が7月22日(日)に白石東公園で開催されました。

大会当日は、前日までの猛暑から一転23度と肌寒い大会となりました。3チームによるリーグ戦で、優勝は栄通17丁目町内会チーム、準優勝は白樺自治会チーム、第3位が大谷地第一町内会チームでした。

3チームの実力が伯仲しており、チャンスをものにしたチームが勝利に結びついたところから、ベンチワーク、攻守の展開など、素晴らしい試合でした。

夏空のもと、第34回 白石東地区グランドゴルフを楽しむ会が、7月28日(土)に白石南公園で開催され、9町内会より47名の参加でした。

数日前まで30度を超す高温で、当日も熱中症予防のため水分補給を告知しながらの大会でした。

3ラウンド24ホールで実施し、大会には80歳代の方14名の参加もありました。男子の部の優勝者、女子の部の準優勝者はいずれも80歳代の方でした。

公園内には、ベンチ、遊具などがあり、障害物を含めたコースもありましたが、ホールインワン報告があったり、和気あいあいとプレーを楽しみ、大いに交流を深められたようでした。

閉会式には、白石東地区センターの事業として白石東・東白石両連合町内会共催のグランドゴルフを楽しむ会、秋季白石東地区グランドゴルフを楽しむ会の告知を行いました。

天気予報が目まぐるしく変わり、大会の開催が危ぶまれたなか、芝が少し濡れているコンディションでしたが、何とか第35回白石東地区グランドゴルフを楽しむ会が9月22日(土)に開催され、8町内会より59名の参加がありました。

参加者最高齢は、90歳の女性で、元気な姿を見せておりました。

3ラウンド24ホールで実施し、コース設定も少し短く、芝の所を半分にし、砂利を避けたり、障害物を避けるような簡単なコース設定としました。その結果、ホールインワンが続出し大幅に打数が減少し、コースのあちらこちらで歓声が上がっておりました。

表彰では、女子の部で同スコア、同年齢で生年月日で1ヶ月の違いで準優勝、第3位と勝負がついた状況でした。初めて参加し、楽しかったと言って頂いたり、次回も参加したいと話されたり、地域全体での交流の輪が広がってきている感じを受けました。

今後も楽しみながらの健康づくりを進めてまいりたいと思います。



健康まつり

平成30年9月20日(木)、白石東地区センターにて、第9回白石東地区健康まつりが行われました。スタッフ含めて150名を超える参加があり年々参加者も増えてにぎやかなお祭りになっています。前回と同様に健康測定や健康相談、配食試食コーナー、体操コーナーなど、健康にまつわるコーナーと共に、地域にある元気になれるサロン紹介コーナーを設けました。参加者の皆様からは、「体操が楽しかった」「地域のサロンが知れてよかった」「骨密度測定で自分の健康について意識を持てた」など、様々な感想をいただきました。来年は節目の10回目になります。白石東町内会連合会をはじめ、地域の様々な団体と一緒に連携していきながら、白石東地区の皆様がいつまでも元気に生き生きと暮らせるよう、よりよい健康まつりを皆様と一緒に作り上げていきたいと思っております。

【取材担当:坂本】



厚別川緑地の秋を楽しむ会

9月29日(土)厚別川緑地の秋を楽しむ会を実施しました。今年は好天に恵まれ、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。白石東地区の東の端になりますが、厚別川の河川敷にバーベキューを楽しむことができる場所があります。

今年は、竹馬や輪回し、グランドゴルフのホールインワンやフリスビー、なわとびも大会形式で行われ、成功すると景品も用意されました。

バーベキュータイムでは、婦人部の方々が用意してくれた盛り沢山の野菜と炭火で焼いた美味しいお肉をお腹いっぱい食べることが出来ました。

ご家族での参加やお友達同士が誘い合って参加してくれました。野球少年団の子ども達も参加し、明るい笑顔と大きな笑い声が青空いっぱいに広がっていました。

来年もまた、青空のもとで楽しいひとときが過ごせることを期待しています。

【取材担当:東海林】



編集委員 市橋[まち協]・長井[体振]・石山[まち協]
取材スタッフ 福田[まち協]・横野[まち協]・田森[まち協]・小笠原[まち協]・福田[まち協]・山本【連町】
東海林【青少年育成】・坂本【白石第三包括】

お問い合わせ「白石東地区まちづくり協議会」

スタッフ
募集

〒003-0026 札幌市白石区本通18丁目南2-6 白石東まちづくりセンター内
TEL:011-862-0813 FAX:011-862-8694 (休館:土・日・祝日)